

ホクコーリゾレックス®水和剤

■種類名：トルクロホスメチル水和剤
 ■有効成分：トルクロホスメチル-----50.0%

■登録番号：第16883号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1987.10.21
 ■性状：淡褐色水和性粉末 45μm以下
 ■有効年限：4年
 ■包装：500g×20袋、1kg×20袋

【特長】

- リゾクトニア病害に卓効を示す土壌処理剤。
- 各種野菜の苗立枯病、根菜、葉菜類のリゾクトニア病に有効。

【適用内容】(2015年5月27日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
てんさい	根腐病	100	ペーパーポット 1冊当り 1L(3L/m ²)	定植前	1回	灌注	6回以内 (育苗土壌への混和は1回以内、500倍希釈灌注は1回以内、100倍希釈灌注は1回以内、散布は3回以内)
	葉腐病	500~1000	100~300L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	
	苗立枯病(リゾクトニア菌)	500	3L/m ²	育苗中期	1回	土壌灌注	
ばれいしょ	黒あざ病	50~100	—	貯蔵前又は植付け前	—	種いも浸漬(10分以内)	1回
麦類	雪腐小粒菌核病	1000~1500	60~150L/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内
レタス	すそ枯病	1000	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内		3回以内
キャベツ	株腐病	500~1000					
トマト きゅうり なす ほうれんそう	苗立枯病(リゾクトニア菌)	500	3L/m ²	は種時	1回	土壌灌注	1回
ピーマン		種子重量の0.5%粉衣	—			—	
	ねぎ	白絹病	1000	500	3L/m ²	2回以内	種子粉衣
種子重量の0.5%粉衣				—	—		種子粉衣
ししとう 甘長とうがらし	立枯病	500	1L/株	収穫前日まで	2回以内	株元灌注	2回以内
みつば			100~300L/10a	土寄せ時 但し、収穫 14日前まで	3回以内	株元散布	3回以内
メキャベツ			立枯症(リゾクトニア菌)	3L/m ²	は種、仮植時 及び定植時	2回以内	土壌灌注
アスパラガス	茎枯病	500	100~300L/10a	収穫後から茎葉刈取り期まで 但し、収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	苗立枯病			株養成期(は種又は定植時から茎葉刈取り期まで) 但し、収穫14日前まで			

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	トルクロホスメチルを 含む農薬の 総使用回数
メロン	黒点根腐病	500	3L/m ²	定植時	1回	株元灌注	2回以内 (定植時は1回 以内、生育期は 1回以内)
				生育期 但し、 収穫 21 日前まで			
こんにゃく	白絹病	1000		収穫 30 日前まで	3回 以内	土壌灌注	3回以内
だいず				収穫 14 日前まで			
ふき			収穫 21 日前まで	1回	株元灌注	2回以内 (定植前の土壌 混和は1回以 内、株元灌注は 1回以内)	
りんご	紫紋羽病		40L/樹		収穫 60 日前まで	土壌灌注	1回
さやえんどう 実えんどう	茎腐病	種子重量 の 0.5% 粉衣	—	は種時		種子粉衣	3回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種時 の土壌灌注は 1 回以内、生育期 の土壌灌注は 2 回以内(但し、 は種時に土壌 灌注をする場 合には 1 回以 内))
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)		1L/m ²	収穫 7 日前まで	2回 以内	土壌灌注	
オクラ		1000	1L/m ² (150mL /穴)	は種時及び 子葉展開時		植穴土壌 灌注	2回以内
うど	白絹病		100~300L /10a	収穫 45 日前まで	2回 以内	散布	3回以内 (粉剤は 1 回以 内、水和剤は 2 回以内)
はずいも (葉柄)	茎腐病			収穫 7 日前まで			
ぎぼうし	白絹病		1L/m ²	収穫 90 日前まで		株元灌注	2回以内
ブロッコリー	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	3L/m ²	育苗期	2回 以内	土壌灌注	3回以内 (育苗期は 2 回 以内、定植後は 1回以内)
						収穫 21 日前まで	
豆類 (未成熟、ただし、 さやえんどう、実 えんどう、未成熟 そらまめを除く)		1000	1L/m ²	は種時	1回	土壌灌注	1回
未成熟とうもろこし	紋枯病	1500	100~300L /10a	収穫 14 日前まで		散布	
みょうが(花穂)	白絹病	2000	5L/m ²	みょうが(花穂)の収 穫 14 日前まで 但し、 花穂を収穫しない場 合にあっては開花期 終了まで	2回 以内	土壌灌注	2回以内
みょうが (茎葉)							
きく				—		株元灌注	
花き類・ 観葉植物	立枯病 株腐病 茎腐病	500~ 1000	3L/m ²	生育期	5回 以内	土壌灌注	5回以内
スイトピー	腰折病						
カーネーション	根腐病						
アスター	苗立枯病 (リゾクトニア菌)						
ハイドラングア	葉腐病		100~300L /10a			散布	

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数	
チューリップ	葉腐病	100	100L/10 a	植付前	1回	全面散布 土壌混和	5回以内	
		200	200L/10 a	植付後～萌芽前	5回以内	全面土壌 散布		
えぞまつ(苗木) とどまつ(苗木)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	3L/m ²	発芽後 (発病初期)		5回以内		苗木兼 全面土壌散布
樹木類	くもの巣病		200～700L /10 a	発病初期				2回以内
	にら		白絹病	3L/m ²	収穫 21 日前まで	2回以内		
にら(花茎)	収穫前日まで							
ふだんそう	立枯病	500	3L/m ²		は種時 但し、 収穫 30 日前まで	1回	土壌灌注	1回
みぶな	立枯病 (リゾクトニア菌)	1000		1L/m ²	は種時			2回以内
未成熟そらまめ	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 茎腐病				収穫前日まで			
みつば (水耕栽培)	立枯病		100～ 300L/10 a	育苗期 但し、 収穫 40 日前まで	1回	散布	1回	

【効果・薬害等の注意】

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用は避けること。
- てんさいの根腐病、葉腐病に対しては、予防的に散布すること。また、根腐病に対しては株元を中心に散布すること。
- 野菜類の苗立枯病防除では、リゾクトニア菌による苗立枯病に有効であるが、他の病原菌による苗立枯病には効果が劣るので、それらによる苗立枯病の混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
- ばれいしょに使用する場合は次のことに注意すること。
 - ◆ 浸漬処理の場合は、所定濃度の薬液に瞬時～10分間浸漬すること。
 - ◆ 処理した種芋はよく風乾してから貯蔵又は植え付けること。
- さやえんどうの茎腐病に使用する場合、多発地では種子粉衣処理では効果が不十分な場合もあるので、土壌灌注処理と組合わせて防除すること。
- オクラの苗立枯病に対しては、植え穴または株元に灌注処理をすること。
- 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本薬剤を施設で使用したあと、施設内に臭気が残る場合には換気を行うこと。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意すること。 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋などを着用すること。作業後はうがいをするとともに洗眼すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 本剤で処理した種いもは食料や動物飼料として用いないこと。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。